

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

| | | | |
|--|---|--------------------|---|
| 授業のタイトル (科目名) 福祉と教育 | 授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習) | 授業担当者 星 恵美子 | 当該科目における実務経験 障がい児児童施設相談員・養護学校教員・放課後ディサービス児童発達管理者 |
| 授業の回数 1 2 回 | 時間数 (単位数) 2 4 時間 (2 単位) | 幼稚園教諭専攻科 後期 | 必修・選択 必修 |
| <p>[科目概要・到達目標]</p> <p>・これからの時代に求められるのは、正解が一つではない問題を考え、課題探求できる分析力と思考力を備えた人材を教育することである。福祉の現場においても。突然生じる問題を的確に発見して捉え、福祉を必要とする人に対して、その一人一人のニーズに応じて問題を解決していくことが望まれる。そのためには、これまでわが国で狩猟とされてきた、一方通行型、知識注入型の教育方法を改め、学生が主体となって学修に取り組める学習環境を構成していかなければならない。福祉の時代に向けて真に必要な諸能力は何かを分析し、21世紀に求められる福祉人のあり方について考察する。</p> | | | |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・「福祉と教育」介護者と利用者、先生と生徒の視点で福祉現場と教育現場の問題や解決方を考察する 2・教育方法の現状 (いじめ・教員の能力不足・教員の精神的ストレス・不登校等) と対応策について考察する 3・教員によるいじめ、児童生徒同士のいじめ等の原因や解決策について、現状を理解し対応策を考察する 4・教員の能力不足の様々な理由を掲げ、授業はじめ、学生対応時の問題点とその原因・解決策を考える 5・教員の精神的ストレスの発生の理由を授業研究、保護者対応、教員間の人間関係等から多角的に考察する 6・現代社会における「不登校」という教育問題について、その原因とそれが及ぼす影響について考察する 7・グローバル社会と言える現代における「福祉と教育」の多種多様化について理解を深める 8・一方通行ではない授業とは？教育現場で必要なコミュニケーション能力の向上のため現場の実態や必要な知識・技術を学ぶ 9・「バイスティックの7つの原則」について、それぞれの項目と内容を理解する 10・これからの社会福祉に求められるものを、専門職としての社会福祉士の視点で考察する 11・これからの福祉教育に求められることを、様々な対象者のニーズに対応するために多職種の専門職が連携することの重要性を学ぶ <p>※ (12・ターミナルケア・筋萎縮性側索硬化症等、症例を学び、ニーズの多様性へも理解を深める</p> <ol style="list-style-type: none"> 13・福祉と教育の現場で、効果が期待される「音楽療法」について実践報告などから理解を深める 14・これまでの授業から、自分が興味を持った内容についてまとめる) 15・14にてまとめた内容を各自が受講者全体へ向けて発表する <p>※1～11及び14の12回で構成し、補講として12・13・15を行う。</p> | | | |
| <p>[使用テキスト]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保育児童福祉要説」 (中央法規) <p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何処へ向かう教育改革 (主婦の友社) ・動き始めた教育改革 (主婦の友社) ・福祉または教育に関する新聞記事など | | | |

[成績評価の方法と基準]

教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。

- ・ 考查点(75%)
- ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。
- ・ 平常点(25%)
- ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っていること